

令和2年度使用小学校用教科用図書採択結果等について

採択地区名 三次市

種目	発行者	採 択 理 由
国語	光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書初めの見開きに、学習の進め方や1年間で学ぶことを確認できるページを設けており、児童が見通しをもって学習を進めることができる。 ○ 各単元に単元扉を設け、文章の読みと着眼点を示すことで、学習への見通しと学びへの期待感をもたせることができる。また、「これまでの学習」として関連する既習事項を示している。 ○ 単元末のふり返りは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点になっており、指導者が3観点を意識して指導を行うことができる。また、ふり返りには、次の学習の課題となる視点が盛り込まれている。 ○ 話し合う活動の単元にはQRコードがあり、自宅でも動画で話し合い活動の手本を見ることができる。また、例示されている話し合い活動のテーマは学校生活で遭遇する場面になっており、身近な課題として話し合うことができる。 ○ 短歌・俳句や古典文学に触れる教材や「ことわざ」「伝統芸能」等の教材が充実しており、児童の語彙を豊かにするとともに、ものの見方を広げることができる。 ○ 資料を用いた文章の効果を考えながら意見文を書く単元では、地図、年表、図、写真、グラフなど多様な資料が掲載されており、児童の思考力や情報活用能力を育むことができる。
書写	光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語教科書と連動した教材が各学年2つ以上あり、国語と一体的に扱うことで学習活動に必然性が生まれるとともに、効果的に学ばせることができる。 ○ 書くときの姿勢について、見開きで毛筆と硬筆の2つを大きな写真で示してあり、児童が教科書を確認しながら書く際、大変分かりやすい。 ○ 毛筆を初めて行う3年では、穂先の向きや筆使いを、シールを用いて確認することができるようになっている。 ○ 6年には「書写ブック」が設けられ、1年から6年までに学習したことを日常生活に生かすことができる。 ○ QRコードが示されており、筆記用具の持ち方や筆使い、用具の片付け方など、多くの参考となる動画を見ることができる。
社会	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の最初の単元に、「学習の進め方」として、問題解決的な学習の進め方を見開きで例示している。「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習段階をたどっており、『主体的・対話的で深い学び』の実現を図ることができるとともに、自主学習を行う際にも役立つものとなっている。 ○ 初めて地図帳を使う3年の教科書では、教科書の始めに地図の使い方を丁寧に掲載している。また、3・4年で地図帳の活用に関する特設ページ、5年では国土の学習の導入で地球儀に関する「まなび方コーナー」を設けている。 ○ 都道府県の学習では、都道府県の形や特産品、特徴、県庁所

		<p>在地等をカードにししたり空から見た各都道府県の海・山・川等を地形に示したりする等の工夫があり、児童が興味をもって取り組むことができるとともに定着を図ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の国土の位置や範囲を表す地図や島、建造物の写真などが効果的な大きさをクリアに示されており分かりやすい。また、図や年表、グラフが多くあり、資料を読み取る力が付くとともに、資料を関連付けて考えることで学習を深めることができる。 ○ 小単元の終末に、学習成果を「まとめる」場面を設けてあり、習得した知識を定着させたり、調べたことをもとに考え表現する力を育成したりすることができる。また、まとめ方が、関係図、年表、プレゼンテーション、意見文など多様である。 ○ 3年から5年の巻末には、学年の学習内容を様々な方法や考え方で振り返る「どのように学んだか振り返ろう」があり、学んだことを関連付けたり統合したりすることができる。また、「こんな学びの進め方もあるよ」では、さらに学習を深めるために、思考ツールや電子黒板等を用いた学習方法が示されている。
<p>地 図</p>	<p>帝国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 12ページにわたり地図の使い方が、絵や図を使って解説してあり、初めて使用する第3学年の児童に大変分かりやすい。 ○ 100万分の1図「都道府県を見る地図」とは別に、160万分の1図「広く見わたす地図」があり、日本の各地方の全体像が捉えやすくなっている。 ○ いろいろな問いを投げかける「地図マスターへの道」は、地図活用の技能や社会的な『見方・考え方』の育成に繋がる。 ○ 4年間使用することになった地図帳だが、4年間の使用に耐えうる堅牢な製本仕様になっている。
<p>算 数</p>	<p>東書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの学年においても、基礎基本の定着を図ることができる問題、活用する力を更に伸ばすことができる問題など様々に掲載されており、児童は一人ひとりの習熟に応じ、もてる力を更に伸ばすことができる。 ○ 基礎的な問題と応用問題の2種類がある「ほじゅうの問題」では、問題に関連するページを記載してあったり、巻末の「ふりかえりコーナー」では既習内容を分かりやすくまとめたりしてあり、自学習の際に用いやすく、主体的に学ぶ力に繋がる。 ○ 1年の①として、入門期に特化したA4版の教科書があり、ブロックを置いたり、書き込んだりして考えることができるようになっている。また、巻頭に、幼児期に育まれた数や量への関心・感覚を引き出すページがあり、入学直後の児童が安心して算数の学習へ入っていくことができる。 ○ 単元の導入では、問題をもとにキャラクターの子どもたちが考えを出し合い、単元を進める中で何度かヒントとなる言葉を発している。単元末も、キャラクターの子どもたちが振り返りを行っている。 ○ 「今日の深い学び」として、数学的活動を効果的に取り入れ

		<p>授業を行っている様子を可視化したページが設定されている。また、その授業を「マイノートを学習に生かそう」とし、授業に対応させたよいノート事例を示している。</p> <p>○ 6年最終単元として、6年間の学習を振り返る「算数のしあげ」があり、つまずきやすい速さや割合を取り上げたり、中学校以降数学で繰り返し活用する帰納的、演繹的な考えをふり返ったり、統計的な問題解決の方法を理解したりするなど、算数の理解を確実にして、自信をもって中学校の学習へと進むことができるようにしている。</p>
理科	啓林館	<p>○ 単元始めには「学んだことを使おう」を設け、既習事項を想起させるとともに、単元末には「学びをつなごう」を設け、他学年の学習や既習事項を使って総合的に考えることができるようにしている。</p> <p>○ 巻頭に「理科の学び方」として問題解決の過程を示すとともに、各ページに「学びのライン」を示し、学びの流れが明確になっている。</p> <p>○ 児童が興味・関心をもつ問題が多く掲載されている。また、単元の導入では、関連する写真を大きく示してあり、児童の「不思議だな」「やってみたいな」といった思いを高めることができる。</p> <p>○ 巻末に観察や実験に必要な技能をまとめてあり、器具などを使う目的、操作方法を確認しながら基礎的な技能の習得を図ることができる。</p>
生活	東書	<p>○ 幼児期に育まれた資質・能力を生かし、小学校へ学びをつなぐスタートカリキュラムを巻頭13ページにわたり他教科等との関連も意識し、丁寧に取り上げている。また、保護者と学校が連携して取り組むことができるよう、保護者に対するメッセージが掲載されている。</p> <p>○ 栽培単元のワークシート例では、児童の観察後の感想等が、上巻では、絵→2行→3行となり、下巻では、様子の表記→やってみたいこと→気付いたこと→ふりかえりと、発達の段階に応じて学びを深める構成になっている。</p> <p>○ 7つの植物について、種から実になるまでの成長を追ってあり、飼育単元の学習の流れが明確になっている。また、その過程では、イラストの吹き出しや様子などに具体的な姿が表現されており、児童にとって手本となるだけでなく、指導者の評価規準ともなっている。</p> <p>○ 別冊として実物大の動植物を掲載した「ポケットずかん」があり、必要に応じて校外での観察に用いることができるようになってきている。見付ける、比べるなどの学習活動に用いることで、気付きの質を高めることに繋がる。</p> <p>○ 下巻の「やってみよう くふうしよう」は、「見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する」等の思考を促す活動の手本として用いることができる。3年以降の理科や社会、総合的な学習の時間にも繋がる学び方となっている。</p>

音 楽	教芸	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習目標の達成のための支援として、イラストによる曲の説明があったり音の重なり方を図で示したりして視覚的な支援を工夫してある。 ○ 「曲の山」を説明する部分では、富士山の高さを「気持ちの盛り上がり」とし、裾野を「時間の流れ」とするなどイラストを工夫してあり、歌唱表現の基礎基本の定着を図ることができる。 ○ 「楽器を大切にしよう」としてリコーダーの手入れの仕方や扱いについて提示している。 ○ 音楽を聴いて気付いたことや感じたことなど様々な意見を友だちと共有する場が設定されている。
図画工作	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3つの育てたい資質・能力に対応した「学習のめあて」を各題材の冒頭に示すとともに、各題材で特に重点的に育てたい力に下線を引き強調して示している。 ○ 「造形の引き出し」で、学年に応じた用具・材料の知識や使い方を丁寧に示すとともに、各題材ページにおいて、配慮すべき内容を「あんぜん」「安全」の囲みを設けて具体的に示している。 ○ 鑑賞の対象として、被災地の復興や広島原爆投下を取り上げてあり、児童が作品に込められた思いを感じ取り、願いを込めて表現することに繋がる。 ○ 児童の発達段階に沿って1ページ題材が設定してあり、児童の興味・関心を生かしながら指導を行うことができる。
家 庭	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての題材を、3ステップの問題解決的な学習で展開できるようにするとともに、各ステップに「めあて」を分かりやすく示してあり、学習の見通しを明確にもつことができる。 ○ 身に付けさせたい知識・技能について、巻末に14ページにわたり掲載するとともに、実習ページの終わりの「できたかな？」やステップごとに「ふり返ろう」を設け、児童が学びを確認することができる。 ○ 学びを生活に生かす「生活を変えるチャンス」を設定するとともに、実践の進め方を分かりやすく示している。また、実践したことをレポートや新聞、スクラップブック形式等でまとめる方法を掲載し、言語活動の充実を図っている。 ○ グラフや表、写真、図など学習上参考となるデータが多く配置されており、資料等を効果的に用いて学びを深めることができる。 ○ 「活動」として、「話し合おう」「やってみよう」「調べよう」「深めよう」が多く設定されており、生活をよりよくする方法を考えるなど、主体的・対話的な活動を行うことができる。

<p style="text-align: center;">保 健</p>	<p style="text-align: center;">東書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の流れを「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」の4ステップで問題解決的な学習の展開となるように構成している。また、最初のページに学習の進め方を示してあり、児童は、学習の仕方を確認するとともに授業の見通しをもつことができる。 ○ 今日的な健康課題に対応した内容やオリンピック・パラリンピック教育等を含め、各単元の関連資料が多く掲載されており、社会の変化に対応しながら健康で安全な生活を営むことについて考えさせることができる。 ○ 単元の導入では、日常生活を想起させる写真や分かりやすいイラストを提示し、児童の興味・関心を引き出す工夫がある。また、児童の気付きを記入する欄があり、児童自身が疑問に感じたことや不思議に思ったことをもとに学習を進めることができる。 ○ 「深める・伝える」「まとめる・生かす」のステップでは、学習したことを自己の生活と比べたり関連付けたりできるよう、自分の考えをまとめる欄を設けている。 ○ 章扉や本文などに他教科との関連を示しており、児童への動機付けになるとともに、指導者にとってはカリキュラムマネジメントの一助となる。 ○ 体や心などを扱う場面において、自己を肯定的に捉えることができるよう「個人差」の記述が多くあったり、様々な場面で多様な人との関わりの例が示されたりしており、インクルーシブ教育への配慮がある。
<p style="text-align: center;">英 語</p>	<p style="text-align: center;">開隆堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだ単語や表現を単元の様々な活動の中で繰り返し使えるように構成されているだけでなく、年2回設けられているProjectでは、既習内容を復習・活用しながら活動が仕組まれており、児童は知識・技能を確実に身に付けることができる。 ○ 単元終末の「Let's Try」では、単元で学んだことを活用しながら、友だちとコミュニケーションを図るまとめの活動が設定されている。 ○ 単元末の「ふりかえりをしよう」では、その単元で学習したことについて3観点で自己評価を行うことができる。また、巻頭のCAN-DOリストと対応させることで、児童は学習の到達点を意識しながら学習を進めることができる。 ○ 「文字に慣れよう」として、「読む」「書く」を体系的に反復学習により着実に身に付けられるよう設定されている。6年では、「文を読んで意味を捉え、文を書き写す」→「文を使って書いたり、文の意味を考えたりする」といった構成になっており、児童にとって無理のない流れになっている。また、目次にも示してあり、児童は見通しをもちやすい。 ○ 巻末には「中学校へつなげよう」として、「過去形」「外来語」など中学校でつまずきやすい項目について視覚的な理解ができるように取り上げてあり、中学校の英語学習へ安心して繋げることができる。

道 徳	日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習の手引き」として、児童の学びと指導者の指導の参考例が掲載されており、『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業を展開することができる。 ○ 授業の展開を「気づく」「考える・深める」「見つめる・生かす」の3部構成にし、それぞれの段階において、児童の考えを引き出す発問を設定している。 ○ 教材名の前には教材に入り込むきっかけになる発問例を示すとともに、教材の内容把握を助ける一言が登場人物のイラストとともに掲載されている。 ○ 各学年に、特設ページ「心のベンチ」が設けてあり、人間づくりについてゲームを通して体験的に学んだり他教科等との関連を考えたりするなど、道徳的価値を多面的・多角的に考えられるよう教材と関連した内容や活動が多く取り上げられている。 ○ 別冊「道徳ノート」では、多様な授業スタイルに対応できるよう、ノートの下半分は自由記述欄になっている。そのため、児童が絵や図を自由に書いたり、指導者独自の発問を設定し児童が考えを記述したりできる。 ○ 各学年に6～8つの「いじめ」の問題に関わる教材が設けられており、発達の段階に応じて、人とのかかわりを考えることができるようになっている。また、「いじめ」の問題について直接的・間接的に扱った教材を組み合わせる集中的に学習できるように配列してあり、児童に人権尊重の精神を育むことができる。
-----	-----	--